ドイツを逃れるR・ヒルファディング，1933年前半

倉田　稔

目　次

はじめに
1．ナチス政権掌握とヒルファディングの亡命
2．「時代と課題」
3．「全体国家」
4．「財政上の帝国破壊」

はじめに

本稿は，ナチス（＝国民社会主義）の権力掌握から，ヒルファディング（Rudolf Hilferding, 1877—1941）の亡命初期までの，彼の生活と思想を考察する。主に，『ノイエル・フォルヴェルツ』Neuer Vorwärts 紙上に現われたヒルファディングの反ナチズム論を紹介・検討する。同紙は，亡命ドイツ社会民主党の中央機関紙であり，Dr. ゴットシャルヒの書[1] でも全く取り扱われていない。

1．ナチス政権掌握とヒルファディングの亡命

1933年1月30日，ドイツ大統領ヒンデンブルグ[2] は，アードルフ・ヒトラー[3] を首相に任命した。それは，ワイマール共和国の死刑執行人の手に首縄を与え

1）Wilfried Gottschalch, *Strukturveränderungen der Gesellschaft und politisches Handeln in der Lehre von Rudolf Hilferding.* Berlin 1962（保住・西尾訳『ヒルファディング』ミネルヴァ書房　1973年）

2）Hindenbung, Paul（1847—1934）。1925年以来のドイツ大統領。伝記として，ベネット『ヒンデンブルクからヒトラーへ』東邦出版

3）Hitler, Adolf（1889—1945）
最新の詳しい伝記として，フェスト『ヒトラー』河出書房新社，1975年。

たことを意味した。

ワイマール共和国時代の内閣の交代は，14年間に20回という，目まぐるしさであった。ヒトラー新内閣の登場は，しかし，何か新しいものが生れたとドイツ国民には思えた。

ヒトラーの首相任命は，政治的策略や思惑，陰謀，妥協の上で生まれた。ヒンデンブルグは、その数日前まで，ヒトラーを首相に任命するのを嫌がっていた。1932年11月の最も新しい国会選挙の結果も，次のとおりであった。［議員数で］ナチス196名，社会民主党121名，共産党100名，中央党70名，国家人民党52名，その他。ナチスは，第一党ではあるにしても，全議席の三分の一弱を占めただけであり，前回（同年７月）の勝利した選挙（230名当選）に比べても34名を失なっていた。資本家や保守政治家は，第三党である共産党の伸びを恐れた。ナチスは粗野な政党だが，彼らの要求を基本的には満たしてくれるし，ヒトラーは十分制卸できる，と彼らは考えた。一方，野党はまた，ナチズムの危険を認識できなかったし，とりわけ，社・共両党は，相互の政治闘争に没入していた。

ヒトラー新内閣は，連立内閣として発足せざるをえなかった。ナチ党員は，首相，内相，無任相（ゲーリング[4]）の３名――後で１名追加された――だけであった。もっともこの日の閣議で，ヒトラーは既に国会の解散を決めている[5]。彼は，次の選挙の勝利によるナチス単独内閣を夢見たからである。

当時の主な反ナチス勢力は，共産党と社会民主党であった。ドイツ共産党中央委員会は，１月30日，全民主勢力にゼネストを呼び掛けた。そして，ドイツ社会民主党指導部に対して，共同してゼネストを行なうよう要請した[6]。社会民主党はこれを検討しなかった。コミンテルンの戦術によって，長い間，社会民主党を「社会ファシスト」と呼んで敵視していた共産党に対して，社会民主

4）Göring, Hermann（1893―1946），伝記としてモズレー『ゲーリング』上，下，ハヤカワ文庫

5）*Chronik. Geschichte der deutschen Arbeiterbewegung.* II. Berlin 1966.

6）Ossip K. Flechthem, *Die KPD in der Weimarer Republik.* Frankfurt am Main 1966, S. 287.

党は憎悪していたのであった。こうしてファシスト独裁の開始に対してさえも，左翼両党は統一できなかった。反ファシズム勢力としての社・共両党が統一戦線を組んでいれば，そう簡単にナチの政権掌握はできなかったのであり，現代にも教訓として残される。

当時ヒルファディングの知人からの手紙をスィージーは，紹介している。

「私は，ヒトラーが首相に任命された数日後，彼［ヒルファディング］と話し，労働経合がゼネラル・ストライキを呼びかける機が熟していると考えられるかどうかと，彼にたずねたことをはっきり思い出す。1933年2月の初めのその時でさえも，彼は気持よいゆったりした椅子に座っており，穏やかな微笑を浮べて語った。私は若い時，扇動家だったが，政治的老巧さというものは適切な瞬間を待ち構えることにある，と。要するに，ヒンデンブルグがまだ大統領であり，政府は連立政府である。ヒトラーごときがうろうろしていても，ＡＤＧＢ［ドイツ労働総同盟］は，一時的な政治目的のためにその全存在を賭けてはならない組織である，と。既にゲシュタポに追われていた友人の家に彼が隠れていたのは，それからほんの数日後のことであった。」[7)]

ナチスが権力を握ったその日から，大量の入党者が続出した。大統領ヒンデンブルクは，二月一日，ヒトラー政府の要請で，国会を解散し総選挙を三月五日に行なうと，告知した。

ナチスは，左翼に対して激しいテロを開始した。二日には，ドイツ共産党に対しデモ禁止令，四日に，「ドイツ国民の擁護のために」の法令を出し，集会と印刷物に干渉した。また，プロイセン州議会を解散させ，ナチ党員をその行政機関に入り込ませた。プロイセン内相にもなったゲーリングは，指導的なナチ突撃隊員を警察の長につけた。十七日に彼は，共産党員に対して容赦なく武器を使用するよう，警察に命じた。一方，二十四日に共産党本部を襲って，「国家反逆文書」が見つかったとか，ヒトラー暗殺計画が企てられたという，

---

7) Editor's Introduction. in: Ed. by P. M. Sweezy, *Karl Marx and the close of his system by Eugen von Böhm-Bawerk & Böhm-Bawerk's criticism of Marx by Rudolf Hilferding*, New York 1966, p. xviii.

デマ宣伝を行なった。ただし、共産党の票が社会民主党に流れるのを恐れて，共産党の組織的禁止そのものはまだ行なわなかった。

政権を握ったナチスは，国家機関を利用することができた。ラジオも有効に使った。彼らの攻撃対象の一つは，共産党であったが，勢力の伸びから見て，共産党が最大の対抗勢力になると思われたからでもある。そこで，共産党を挑発して，それに乗ってきたら叩こうというのが，ナチスの戦術であった。共産党は挑発に乗ってこなかった。極めて根本的な戦術上の誤りが，原因であった。共産党は，その主要な敵を，社会民主党であるとした。議会制民主主義とファシズムとの区別を付けなかったし，ヒトラーは財界の愧儡にすぎないと見，ナチス政権は短期のはずで，共産党の権力獲得がその後まもなくやってくるはずだ，と誤って考えていた。つまりナチスを主要な敵と見なさなかったのである。

共産党がナチスの挑発に乗らなかったので，ナチスは打倒の機会を見出せなかったが，その時，二十七日夜，9時数分すぎ国会議事堂放火事件が起きた。それは，総選挙の一週間前であった。

オランダの一青年ファン・デア・ルッベが国会議事堂に放火した。共産党の蜂起を過信していたヒトラーらは，共産主義者が火をつけたと心から信じた。勿論共産党はこれに無関係であった。ナチスも手を下していない[8] とされる。ナチス指導者ヒトラー，ゲッベルス，ゲーリングが直ちにやって来て，共産主義者に罪を負わせた。彼らはこれをきっかけにして，弾圧を開始した。その対象は，主に共産党であったが，そればかりではなく，反ナチ勢力にも広げた。27日の夜のうち，ベルリンだけで1500人，ドイツ合体で1万人以上の活動家が逮捕された。共産党員の逮捕は4000人（役員）であり，共産党のすべての機関紙および社会民主党の一部の機関紙が禁止された。28日には，緊急令 Zum Schutz von Volk und Staat が出された。フェストは「これは疑いなく，第三帝国全般を通じて最も重要な法律」[9] であったと言う。三月三日，共産党中

8) Fritz Tobias, *Reichstagsbrand.*
9) フェスト，下．20ページ。
10) Zeno Zimmeling, *Ernst Thälmann.* Berlin 1974, S. 118.

央委員会議長エルンスト・テールマン Thälmann（1886—1944）[10]が逮捕され，同9日，コミンテルン執行委員ゲオルギィ・ディミトロフ[11]らも捕まった。共産党は当時，600万の投票数と党員36万人を擁する，資本主義世界最大の革命政党であった。しかし，この緊急令によって，さしもの共産党もあえなく滅亡したのである。ヒトラー政府は，共産党国会議員の議席81を取り消した。

次にヒトラー政府は，苛酷なテロルを社会民主党と労働団体の下部組織（地区・経営などの組織）に対して加え，官公職または職場からの反ナチスの追放という脅迫によって，下部組織の活動に致命的な打撃を与えた。ただ党と組合の幹部に対してだけは，比較的寛大な態度を取ったので，党幹部は，その間ひたすら組織の合法性を維持することだけに終始して，弾圧の嵐の過ぎるのを待とうとした[12]。

この恐嚇政治を通じて，総選挙はナチスに有利になった。その結果は，ナチス288議席，ドイツ国家人民党（国権党）52議席——以上，与党——で，総議席647のうち過半数を占めたが，ナチスは単独では過半数をえられなかった。共産党はそれでも485万票をとり，この弾圧の中では結局19議席を失っただけで，81議席となった。しかし，同党議員は，前述の事件で逮捕されたり，逃れた議員は地下に潜るか亡命するほかなかった。ヒトラーは，共産党以外に9名の社会民主党員を逮捕していた。社会民主党は，120議席と720万票を獲得し，第二党であった。亡命した社会民主党員は，左派の有名な幹部であって，例えば，ブライトシャイト，クリスピエン，ヒルファディングらであった。国会議員団の多数派は，オットー・ヴェルスのもとで合法路線を守った。

3月23日の国会で，ヒトラーは，全権委任法を提出した。この「国民と国家の危急除去のための法律」は，立法が国会から政府に移され，法律作成権は大統領から首相へ移し，政府は憲法改正ができる。などの内容のものであった。

11）ディミトロフ（1882—1949）。ブルガリア人，のちにブルガリア首相。
放火犯人ルッベの共犯として、デッチあげ裁判を受ける。参照 G. Dimitroff, *Reichstagsbrandprozeß*. Berlin 1946（英語からの訳『獄中からの手紙』国民文庫　1955年）。

12）この文節は，村瀬興雄『ドイツ現代史』東大出版　1965年，13ページから引用。

政府に全権を与え，議会を事実上無力化する，非民主的，反民主主義的法律である。この議会に，共産党議員91名は登院できなかった。社会民主党議員のうち，26名は逮捕され，あるいは亡命しており，残りの94名が出席し，同党だけがこの法案に反対した。この時，党首オットー・ヴェルス Otto Wels は，反対討論を行なった。しかし，中立にあった中央党73名がヒトラーのトリックに騙され，結局，社会民主党以外の全政党の賛成（441票対94票）によって，つまり三分の二を超えたので可決され，これによってワイマール共和制は，滅亡した。後に言われる「金融資本の最も反動的な，最も排外主義的な，また，最も帝国主義的な勢力の公然たる暴力的独裁」[13]への移行が完成した。

ヒルファディングは，警察の追求を逃れて，友人の家に身を隠し，党の要請により，三月二十一日にドイツを去った。しばらくデンマークに留まった後，スイスに逃れた。四月にはルツェルンへ行き，その後チューリヒにいた[14]。

全権委任法の可決によって，ヒトラーの権力掌握の第一段階が終った。同法の可決される少し前に，ヒトラーは，プロイセンを除くドイツ各州にナチ政権を任命した。三月三十一日，ヒトラーは，全権委任法を利用して，プロイセン以外の各州の議会解散令を公布し，新しい議会をナチに有利に再構成した。しかしその直ぐあと，四月七日にその議会も解散させた。いわゆる一元化が完了したのであった。

四月一日に，ユダヤ人の店の全国的ボイコットを布告した。その前には，ユダヤ人を公職から，自由職業から追放していた。ヒトラーは，共産党の次に，社会民主党と労働組合の弾圧に向った。五月一日，つまりメーデーの日を国の祭日に指定し，大祝賀を行なった。労働者を喜ばせておいて，翌日五月二日に，全ドイツでナチの突撃隊と親衛隊は，組合事務所と総同盟傘下の企業と労働金庫を占拠し，指導的役員を逮捕し，その一部を強制収容所に送った。組合はつ

13）ディミトロフ『反ファシズム統一戦線』東京、大月書店、国民文庫，1955年，9ページ。

14）Gottschalch, *op. cit.*, S. 27. および「アムステルダム社会史国際研究所所蔵，ヒルファディングの未発表手紙，一部目録」（倉田『若きヒルファディング』丘書房，所収）

ぶされた。その後，団体交渉権を取り上げられ，ストライキは非合法化された。五月一〇日に，ゲーリングが要求して，社会民主党と国旗団（同党の実力部隊）の全ての事務所・新聞・財産が，没収された。六月二二日には，社会民主党の活動が全て禁止された。同時に同党の国会の議席が奪われた。党指導者パウル・レーベと同党国会議員数名も逮捕された。6月27日から7月6日に，ブルジョア諸政党が解散され，7月14日に，ナチ党以外の全政党が解散あるいは禁止された。こうして，全体主義体制が確立された。

ゲッベルスは宣伝相として3月13日に入閣した。ライヒスバンク〔帝国銀行〕総裁ハンス・ルターは罷免され，3月17日にシャハトが就任した。彼は献身的なヒトラー追随者であった。ダレが農相となったし，クルト・シュミット（連合保険会社の総支配人だった）が入閣した。フーゲンベルクは閣外に去った。プロイセン首相パーベンはその地位を奪われ，ゲーリングが後を襲った。

1933年4月26日に，最後のＳＰＤ全国会議が開かれた。全地域の代表者，党幹部会，大会代議員，統制委員会，が参加した。オットー・ヴェルスが第一党首，ハンス・フォーゲルが第二党首となった[15]。だがその後，ナチの圧政のために，幹部会は，5月4日に最後の会合を開き，ナチへの抵抗を続けるために，6名の幹部を外国，つまりザールブリュッケン（フランス国境に極く近いドイツの町）に送ることを決議した。クルンメナール，パウル・ヘルツ，オレンハウアー，フリートリヒ・シュタンプファー（『フォルヴェルツ』編集者），フォーゲル，ヴェルスであった。つまり事実上の党首脳である。これを在外代表部と呼ぶ。ベルリンにはパウル・レーベらが残った。在外代表部は，ザールブリュッケンに移ってから，重要な決議をした。ＳＰＤ国会議員を帝国議会へ送るな，というものであった。ベルリンに残った幹部会は，これに反対した。

5月に，ＳＰＤ幹部会はプラハに移転することに決った。在外代表部は，プラハに移り，Sopade-Büro（ゾパーデ・ビューロー）社会民主党事務局を設け，6月2日，反ファシズム闘争開始の幹部会の声明を出し，6月18日から Neuer Vorwärts を発行した。

15）*Geschichte der deutschen Sozialdemokratie.* 1917—1945. Berlin 1982.

亡命ドイツ社会民主党員は，三つの集団に分れていた。先ず今挙げた，1，「ゾパーデ」Sopade，党指導部を中心とする改良的社会主義者のグループで，プロレタリア独裁を拒否していた。2，社会主義的民主主義を擁護する革命的社会主義者，3，「ノイ・ベネギン」，レーニン主義を模範とするグループ，である[16]。

ヒルファディングは，各グループの中間的な立場を取った。

2．「時代と課題」

ヒルファディングは，亡命中，主に二つの誌紙で，活躍した。一つは，週刊紙『新しい前進』Neuer Vorwärts であり，もう一つは，理論誌『社会主義の雑誌』Zeitschrift für Sozialismus である。

プラハの亡命ドイツ社会民主党中央委員会は，1933年の夏，ルードルフ・ヒルファディングに月刊理論誌の編集と発行を委任した。それが『ツァイトシュリフト・フェア・ゾチアリスムス』であった。同誌は，ワイマール期社会民主党の理論誌『ディー・ゲゼルシャフト』Die Gesellshaft の後継誌に相当する。1933年10月10日にカールスバートで『社会主義革命』Sozialistische Revolution. Monatsshrift für Probleme des Sozialismus という誌名で，第一号が出版されたが，チェコスロヴァキア当局によって，誌名の変更を余儀なくされ，『ツァイトシュリフト・フェア・ゾチアリスムス』となったものである。

この理論誌，第一巻第一号1933年10月（カールスバート／プラハ）の巻頭に，無署名論文「時代と課題」[17] Die Zeit und die Aufgabe が現われた。これは，ヒルファディングの執筆作品である。この内容と意義を紹介しよう。

この論文は，八つの小節からなる。全体として，反ナチズム論であり，またこの雑誌の意図と性格を開陳している。

第一節は，「資本主義の震撼」と題され，序論に当たる。ヒルファディング

16) Gottschalch. *op. cit.* ゾパーデについては，なお，富永・鹿毛・下村・西川『ファシズムとコミンテルン』東大出版会1978年，IV. 2. を参照。
17) 邦訳，倉田・上条訳編『R・ヒルファディング　現代資本主義論』新評論，所収。

は，今の時代は，革命的であると言う，つまり，大恐慌によって，資本主義社会の土台が揺らいでいるからである。さて，大資本が経済を組織しようとしたが失敗した。こうして，一方で金融恐慌が加わり，他方で膨大な失業者軍があり，農民大衆と中間層が貧困におののいている。

第二節「恐慌下の労働者層と市民層」で，彼は，経済混乱の時期を二つに分ける。第一期は，世界大戦によって始まった。第二期は，1929年恐慌で始まった。第一期では，労働者階級は政治的経済的力を強化し続けた。これに，大資本家と大農業家が抵抗した。そして彼らは，中間層を同盟者にした。

「大資本の意識的な反動が，労働者に敵対的な資本主義中間層の心情と合体した。」労働者階級は，反資本主義政策の唯一の担い手であり，これは進歩的政策である。第二期では，中間層つまり都市中間層と農民層が，労働者階級と並んで，反資本主義的政策の担い手となってきている。ただし両者，つまり中間層と労働者階級の，反資本主義的政策は，根本的な相違がある。それを次節で究明する。

第三節は，「反資本主義的反抗」である。これは，第二期で生まれた新しいつまり中間層の反抗を，意味している。これが資本主義世界全てで起きている。農民層が都市中間身分と共に，保護主義・自給自足・インフレの経済政策を要求している。だが彼は，殆んどアメリカ合衆国を事例に取り上げている。

第四節は，「ドイツの反動」である。新しい資本主義的反抗が，ヨーロッパでも起きている。だがドイツは特別である。ドイツは，ヨーロッパの反動の砦である。大ブルジョアジーだけでなく，とりわけドイツ中間層とインテリ層が，この伝統的な反動イデオロギーと政治に染まった。「反資本主義戦線」が，大資本家層・大農業資本家層の大部分を包んだ。それらの層は，恐慌により，その経済的基盤を揺り動かされ，零落者の党，つまりナチ党に結集する。ドイツでは労働者階級の党が二分している。その一つである共産党が社会民主党に対抗したので，分裂し，ナチ党を勝利させた。

第五節は，「国民社会主義（＝ナチス）の統制国家」である。この節で，ナチーズムを特徴づける。彼の議論は，正確で，冷静である。ナチの全体国家は，

国家権力の絶対化と巨大な膨張である。全ての政治組織，経済組織，文化等の団体が，独裁下にあり，人民は非政治化されている。国会と地方議会，地方自治が破壊されている。国民は国家奴隷にされている。彼は注意を促す，それは，ナチ独裁が，広範な大衆基盤を持っており，ドイツ国民のかなりの人々が独裁を支持している，点である。ナチ独裁は，権力の獲得と維持では残忍で，野蛮であり，行動は野獣的で，心情は卑俗である。ユダヤ人根絶やマルクス主義者への犯行が行なわれている。ドイツ人はこの体制に責任がある。

第六節，「ドイツの『反資本主義』の破産」で言う。労働者は政治的に抑圧され，運動の自由を奪われ，国家の奴隷になっている。反資本主義政策は労働者にたいする大資本の圧倒的な勝利に終った，と彼は見る。中間身分の反資本主義政策も，まもなく挫折した。中間身分の反攻は，資本主義経済法則に突き当っているからである。中間身分の反資本主義政策は，実は，資本主義経済を変えない限り実現できないものである。大農業の政策も変えられないので，農民の利害ももとのままである。恐慌・失業との闘いについては，ナチの政策は恐慌を激化させ、長引かせる，と。しかしこの予言は，長い目では形成上，当らなかった。

第七節，「ナチの戦争脅威」で，戦争の危険が増大していると指摘する。つまり，反資本主義的政策が拒否され，ナチ独裁が大資本家を復興させると，ナショナリズムの煽動がなされ，軍備拡張が進められ，軍隊の脅威が作られる。

そして第八節，つまり最終節，「革命的課題」は，この論文の結論である。ナチは，ドイツ国民と人類の不倶戴天の敵である。そしてファシズム＝ナチスを性格づける。ファシズムは，ブルジョア資本主義の根底を何一つ変えていない。ファシズムは，経済恐慌によって基盤を堀り崩されたブルジョア的資本主義社会内部での変革であり，また資本主義的階級対抗の未曽有の危機的な激化の表現である。ナチがその大衆的基盤を失うと，すぐに独裁への抵抗が始まるであろう，と彼は予言する。〔これは長期的には正しいかもしれないが，短期的な予測としては正しくない。〕現在の独裁が握っている国家権力は巨大であり，大衆の不満が政権の崩壊をもたらすほど大きくはない，と注意しながら，

彼は，全体国家との戦いは全体革命でしかありえないとする。そこで二つの課題を提起する。一つは，ドイツにおいて非合法活動を組織することであり，二つは，戦いの指導と力を発揮するため，精神的準備をすること，である。そのために機関誌＝雑誌が必要である。つまり，本論文の載った，『ツァイトシュリフト・フェア・ゾチアリスムス』のことである。そこでは，社会主義とその実現の大問題が討議されるべきであるとし，その議論の態度と方法を要請する。例えば，将来への教訓を得るために，自由な根源的な自己批判を行なうこと，教条を排して真にマルクス主義的方法によって現実を把握すること，権力への道を認議し，権力行使の目的を提示し，権力行使と維持の方法を発展させる，という課題である。

3．「全体国家」

ドイツ社会民主党の亡命グループは，『ノイエル・フォルヴェルツ』紙を，カールスバート（チェコ）のハウス「グラフィア」という所から発行し始めた。この機関紙は，「社会民主主義の週刊紙」とされている。

ヒルファディングは，同紙第一号（1933年6月18日）に，Richard Kern という筆名で，論文「全体国家――全体の破産」（副題「第三帝国の無責任経済」）を寄せた。彼は，ナチズムが権力を掌握する以前の時期と，掌握してから少しの時期と，約1ケ年の国家財政の批判をここで行なった。

彼はこう論じる。「独裁というもの，それは，責任が問われることのない政府であり，釈明をする必要のない政府である……。国民社会主義［＝ナチズム］の権力掌握以来，ほかのあらゆる政治的自由とともに，国民代表の最も重要な権利である予算審議権も奪われてしまった…。経済的財政的報告は，ほんのわずかしかなされないし，なされても，権力者の目的に応じて作られる形をとっている。…予算とは，収入と支出の決定であるが，これは政府の認意に対して真の制限になる…そういうわけで，無制限に振舞おうとする独裁的政府が予算審議権を廃棄するのは，論理必然的となる。」

［初節］帝国予算計画なし

帝国政府は，臣民に全く関与させずに，70億マルクの税金で，活動を始めた。それればかりでなく，国民社会主義の独裁は，彼らのファシズム的手本を乗り越えている。なぜならムッソリーニ[18]内閣の蔵相は，予算案をファシストの疑似議会にほんの少しだが、提出したからである。

［2節］1932年の予算

帝国財政の月報は，ますます遅れて発行され，一層無内容になっている。今，1933年4月1日に終った会計年度の決算が出た。ブリューニング[19]とディートリヒ[20]とが抑制措置をとって，全力で均衡［予算］状態にしようとしたことが問題となっている。結果は，6億1千万マルクの赤字であり，それは主に，税収の一層の低下に原因がある。だが，前年度の不足は12億7千万マルクなのだから，赤字総計は18億8千万マルクである。この約20億マルクに，さらに諸州と市町村の，たぶん同額の赤字が加わる。だから公共体の当年度会計の当初の［赤字］額を，少くとも40億マルクと見積らねばならない。かつては恐慌が継続したため，またその後は，ブルジョア諸層が一種の潜在的納税拒否をしているために，税収の伸びはすすんでいない。国民社会主義者は，中間層と農民に減税を約束した。かれらは美しい約束が果されるのを待っているし，とにかく税を払わない間は少し助かっている。こうして，蔵相は相変らず訓示を垂れるし，大都市では税を払えというプラカードがかかれ，遅滞利子が再び導入されるのである。

［3節］自治体の財政破綻

なおひどいのは，市町村である。その大部分は，負債の利子と償還金をもはや払っていない。請負業者にも支払っていないかあるいは支払いは大変滞って

18）Mussolini，1883—1945.

19）Heinrich Brüning，1885～1970．1924年，中央党に入党，ミュラー（社会民主党員）内閣の後，1930年に首相（第一次ブリューニング内閣　1930．3．30～1931．10．9，第二次ブリューニング内閣　1931．10．9.～1932．5．30），大統領緊急令を多発して経済復興を試みるが，資本家に反対される。パーペン内閣に代られる。1934年，ナチス政権の時，アメリカに亡命する。戦後帰国する。

20）Hermann Robert Dietrich のことであろう。ドイツ民主党員，ミュラー内閣の食糧大臣，プリューニング内閣の蔵相。

いる。歳出はすべて抑制し，とくに文化的な費用はそうである。それにも拘らず，ますます縮少する福祉施設や貧民救助の資金は，もうほとんど調達できない。

そのためにカッセル市では，公共企業の労働者・職員から純所得の５％を毎月出させ，民間企業の労働者・勤め人から３～18％の所得税を取った。企業と会社所有者の資産からも同様に取った。国民社会主義党組織が，労働者１人あたりの月収100マルクから３マルクを取り立てるという，税の取り立て人になったことは，啓蒙的に作用した。大蔵省はこれに異議をとなえたが，全経過は，この状態が，比較的富かで大きな市町村でさえもいかに堪えがたくなっているかを示している。

［４節］帝国政府はなにをする？

帝国政府は，財政秩序に対し，髪の毛一本も手をふれなかった。その支持者を失望させきってしまうまいとして，家賃税，営業税，自動車税という所有税をさらに引き下げたのである。そのために，州と市町村の状態は一層悪化した。政府は，公的福祉制度がどんなにますます衰弱するかを傍観しているばかりではない。危機が激しくなっている間に，市民をボランティア活動に動員させることによって，公的福祉活動の衰弱を意識的におしすすめている。

政府は，食料品を値上げ，市町村に苦痛を担わせる経済政策で，困窮を高めている。赤字がますます増加し，諸州と市町村の行政がますますひどく衰弱することを，われわれは見積っておかなければならない。

帝国の財政は，完全に不透明である。たしかなのは，ＳＡとＳＳ[21]の維持のために大いに支出されていることである。それに加えて，農業と工業に対して，政府補助金が増大しており，現にある負債の増加として表わされるはずの資金は調達されていない。

21）ＳＡは，ナチス突撃隊 Sturmabteilung の略。ＳＳは，ナチス親衛隊 Schutzstaffel の略。ＳＡは，ナチス初期から組織された党内の政治的軍隊。ＳＳは，1923年創立，ＳＡの内部にヒトラーに忠実な者のみを集める。1933年末にＳＡは450万人，1933年にＳＳは５万２千人を数えた。1934年にナチス革命でＳＡが解散し，ＳＳに引き継がれる。

また，10億マルクが失業対策のためにあてられている。労働者は一定の資金を強制的に支払わされており，自治体は必要な労働をその基金から調達する。借款とか，大所得・大資本から課税して調達することは，考えられていない。この資金調達は，小切手・手形を振り出してなされ，それが帝国銀行で銀行券に換えられる。結局，国家支出のための紙幣印刷ということになる。これは，インフレーションへの第一歩である。

もちろんこの手形は償還されねばならない。1934年以後の会計は，償還義務を負わされている。この負担準備は少くとも5億マルクであろう。それに，増加しつつある目下の赤字が加わる。なお，また，2.5億マルクの新失業対策計画がある。すなわち，1934年には，現在の赤字は，少くとも12.5億から15億マルクだけ増える。以前の赤字20億マルクだけではない。借款はできないし，税の引上げもできない。そして，自治体財政は窮乏している。紙幣印刷以外に出口はあるだろうか？

［5節］『外貨振り替え停止』

シャハト氏には[22]，もちろんうまい計画がある。ドイツはこれまで民間の外国債権者に，その資本ではなく，利子と償還金をたしかに支払い，シャハト氏はこれらの支払を停止したことによって，ドイツが半分破産しているのを，19分の1の破産だと思い違っている。ドーズ借款やヤング借款[23]や支払い猶予金のために，支払いはいっそう行われざるをえない。ドイツ経済の破産が拡大したことで，外国への数千万マルクの支払いをシャハトは免れている。彼は，その間に，国際収支と通貨を改善している。しかし，それはドイツの信用をひどく傷付けることによってあがなわれる。また債権諸国がドイツ貿易の純益を負

22）Dr. Hjalmar Schacht, 1877～1970. 1924～29年，ドイツ銀行総裁，1933年に返り咲く。1934～37年，経済相。

23）C. G. Dawes 1865～1951. アメリカの実業家，政治家。1923年，ドイツの金融・賠償に関する専門委員会の長となり，ドーズ案を作り，インフレーションに悩むドイツ経済の安定を計る。

O. D. Young. 1872～1962. 1924年，ドイツ賠償会議アメリカ代表。ドーズ案の成立・実施に尽力する。1929年パリ賠償会議で，経済専門委員会の長として，ドイツ賠償支払い問題の解決を試み，ヤング案を作成した。

債の弁済にあてようという反対措置を呼び起こすであろう。とにかく債権者は，支払いを再開させる手段を持っている。そうなれば，会計秩序は不可能になる。通貨への圧迫が同時に内外からやってくる。

管理されない経済は，つねに乱脈になる。議会のコントロールが排除されてからは，バーペン[24]政府は，無責任にも，未来に負担を負わせた。だが国民社会主義者が行なうことは，バーペンが経済の振興のために軽はずみにも賭けたことを，ずっと追い越している。彼らの全体国家は，全体的破産へと駆り立てられている[25]。

4．「財政上の帝国破壊」

ヒルファディングは，「全体国家」を公表した後，「経営内の奴隷制」[26]を「ノイエル・フォルヴェルツ」紙に書き，続いて「財政上の帝国破壊」を同紙に載せた。これは「全体国家」に直接関連するので，先に取り上げる。ただし，これはかなり短いものなので，訳出して，それに代える。

※　※　※

財政上の帝国破壊

自治体の終り。一九三三年の帝国予算，帳簿の偽造。最新の経済人たち。

ベルリン市は，その債権者に支払不能を通知している。起こされた交渉の中で，同市は，長くは待てないことを明らかにし，一方的に利子を4％にひき下げている。その間，同市は同時に，弁済額の支払いを「将来にいたるまで」延期している。外国の負債と自治体の抵当証券は，これらの「決定」からは除外されるはずである。ついこの間，既に，ベルリンの当局者は，ベルリンの負債を14億ライヒスマルクであると示した。そのうち2億2千6百万［ライヒスマ

24) Papen, Franz von, 1879～1969. 1932年6月から11月まで，首相。ヒトラーの連立内閣の時に，副首相，プロイセン首相。

25) Totaler Staat－totaler Bankrott, Verantwortungslose Wirtschaft im Dritten Reich. in: *Neuer Vorwärts*. Nr. 1, 18. 6. 1933.

26) Sklaverei in den Betrieben, in: *N. V.*, Nr. 3, 2. 7. 1933.

ルク］が，毎日あるいは短期で，満期となっているという。納入業者は，数週または数ケ月の後にやっと支払いを受ける，と。市当局者自ら，市は完全に支払不能であると，明らかにした。この報道は，それゆえ幾分突然に来た。というのは，ベルリン電気会社を一部売ることによって，財政が半分整理されると，思われていたからである。

同様の声明が，ドレスデンとリューベックで出されている。

これらの大都市と並んで，すべての数の他の町村が，その債権者に最後通告を出し，短期債務は支払えないことを明らかにしている。

自治体財政の破壊が

一層明らかになっている。

その間，ナチ政府は，町村の切迫した負債を少しも気にかけずに，何もせずにその零落を傍観するばかりではなく，税の削減と新しい負担への転化によって，町村の破滅をなおも促進している。驚くことはないのだが，社会扶助料はより一層減少させられている。ヒトラーの有名な失業対策事業への10億［ライヒスマルク］は，それがともかく支出されるかぎりは，極めて切迫した建物・道路への維持を行ない，最も必要な援助に支出するという状態に町村を置くために，町村財政の深淵の中で消滅させられてしまう。

諸州と町村の状態は，年がたつにつれて急速に悪化する。なぜなら，既に昨年の会計年度で全く不十分であった帝国の予算配分が，なお一層削減されているからである。

1933年の帝国予算

は，今や会計年度の開始後３ケ月で内閣で可決された。だが，醜聞であるが，実際の内容について世間は殆んど何も聞いていない。予算案が決済されたという宣伝文書が知らされただけであった。だがそれ自体，この主張がずうずうしい詐欺であることが，僅かな飾りたてた文書から現われる。

1932年の帝国予算案では，きっかり82億［ライヒスマルク］の歳出と歳入が，見積もられた。実際の歳出は79億［ライヒスマルク］で，実際の歳入は73億［ライヒスマルク］であった。不足額は，６億［ライヒスマルク］であった。

今，1933年の歳出は，単に59億［ライヒスマルク］が記されている。この減額は，単に仮象である。州と町村に渡され，以前に帝国予算で歳出と歳入面で現われた16億［ライヒスマルク］が，今，初めから除かれている。それにたいして4億［ライヒスマルク］が，実際に減少した支出項目を表わしているはずである。

何を書こうとかまわない。ナチ独裁の費用が常に増大することは，少しも疑う余地がない。常に行なわれる軍備拡張，党員名簿職員と委員の一層増大する大群のあらゆる

種類，

ＳＡとＳＳの維持のため，また労働収容所，任意そして強制の労働奉仕のための，支出は，通常予算の中には絶対に明らかにはならない。

次の支出がある，先ず，ついには紙券印刷によって行なわれる空手形売買である，しかしこれは，もし急速で止ることないインフレーションを行なわないならば，予算に一層強く負担を掛けざるをえない。

なお詐欺的なのは，歳入の評価である。政府は，経済の一定の振興を考慮して税収が見積られたと，自ら声明している。1932年に，税収は54億［ライヒスマルク］と見積られ，実際は49億であって，５億少なかった。このことは，1933年の税収を51億とすること，つまり机の上で，２億高くすることを政府は妨げない。

しかし実際には，税収は，

持続して後退している。

税収は例えば，1932年５月の５億4110万に対して，［1933年の］５月には５億2568万であった。この際，借金返済のための項目の新しい予算では，２億４千から１億へ縮小される，そして１億が，帝国の所有から帝国銀行優先株が売られるはずであり，恐らく前年と同じく完全に引き受けられる。

その他の点では，この記載は大変不足していて，全ての比較の数字が脱落しているので，意図的に分らなくされていて，そのために本当の予算の批判が，全く行なえない。検査をことごとく妨害することが，まさに政府の追求する目

的でもある。だが一つのことは確実である。公共財政の実際の均衡は問題ではないのであり，全予算は意図的に帳簿が偽造されている。

このような状況の下では，インフレーションの信奉者が帝国政府の中で大変ゆゆしくも増大したことは，それだけゆゆしいことである。そこで先ず，

ゴットフリート・フェーダー氏，

つまり利子奴隷制の破壊者で，

フェーダー貨幣の発明者が，経済省の国家書記官になった。彼は，意識的で決定的なインフレーション主義者であり，そこで極く容易に帝国大蔵省の国家書記官，ラインハルトと会うのであろう。彼は30～50億の労働手形の発行を宣伝し，それは勿論また追加紙幣そのものである。しかしまた

新しい食糧大臣，ダレ博士は，このような理念の信奉者として認められうる。彼の直接の目的は，債権者を新しく収奪することである。彼は，農業の担保利子を2％にひき下げようとしている，それは農業の抵当証券への利子がまた同じ率に切下げられねばならないことを意味するものである。これはつまり，抵当証券の所有者がその資本の三分の二を失なうことである。民間の信用の破壊は，公信用の破壊になるであろう。進展するインフレーションが，不可避的な結果になるであろう。[27]

ドクター・リヒァルト・ケルン＊

※　※　※

27）この点について，シャイラーも書いているので，補足しておこう。
「変人経済学者ゴットフリート・フェーダー博士は，いまでは，［ナチ］党がかかげた政策――大企業の国営化，利益分配と不労所得と＜利子奴隷＞の廃止を，実行にうつすべきだと強く主張していた。それだけではまだ実業家連を脅すにたりないかのように，農相に任命されたばかりのヴァルター・ダレは，農民の経営資金債務を大幅に切り捨て，残った借金の利子は2パーセントに引き下げると公約して銀行家たちをふるえあがらせた。（『第三帝国の興亡』1，東京創元社）

＊　傍点は，原文隔字体を示す。

［追記］資料入手に際して，Internationaal Instituut voor Sociale Geschiedenis (Amsterdam), Forschungsinstitut, Friedrich Ebert Stiftung (Bonn-Bad-Godesberg) および Bremen Universität に感謝する。

ヒルファディングの著述活動は，ひき続き進められる。これ以降の紹介は稿を改めたい。